

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H02598

研究課題名(和文) アフリカ先住民のディレンマと将来像に関する研究

研究課題名(英文) Dilemmas of African indigenous peoples and their future

研究代表者

市川 光雄 (Ichikawa, Mitsuo)

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・名誉教授

研究者番号：50115789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,700,000円

研究成果の概要(和文)：アフリカ先住民が自然保護や開発、政治への参加や土地に対する権利の獲得と、固有の社会・文化との間で直面しているディレンマを明らかにするとともに、それへの対処法を検討した。非木材森林資源の商品化や、先住民を巻き込んだツーリズムは、従来は対立的とされてきた自然の保護とその利用、開発と固有文化の保全などを統合し、一定の利益をもたらした一方で、既存の不平等な民族間関係や格差を拡大・再生産していることを示した。また最近、一部の先住民の土地に対する権利が認められたが、それが従来の移動生活や流動的な社会編成と矛盾し、発展の可能性を制限するなどの新たな課題を生みだしていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカの先住民に対しては、これまでも自然保護や開発計画を進めるうえで、彼らに配慮する必要性が謳われており、世銀などでも「先住民開発計画」などを事業の担当者に義務付けるなどの施策がとられてきた。しかし、これらの開発や教育、あるいは意志決定過程への参加や土地と資源に対する権利の付与などによって生じた新しい経済的、政治的機会が、彼らの固有文化や制度にどのような影響を与え、またそこでどのような問題が生じているかについてはあまり検討されてこなかった。本研究では、こうした問題に焦点をあてることにより、先住民の文化・社会と両立する開発を考えるための手がかりを与えるものである。

研究成果の概要(英文)：The dilemmas faced by African indigenous peoples between nature conservation, economic development, acquisition of land rights, and their unique culture have been examined. Commoditization of non-timber forest products collected by the Baka hunter-gatherers in Cameroon, or ethno-tourism involving the San in the Kalahari and the Hadza in Tanzania have integrated economic welfare with preservation of indigenous culture, and contributed to their household income. They have, however, reproduced existing inequality between the dominating groups and the indigenous peoples. The land right granted recently to certain members of the San in Botswana and the Hatza in Tanzania, likewise, produced a problem that their social flexibility has been disrupted, or other means to development than hunting and gathering is made illegal. In these ways, the emerging opportunities have produced new problems for the African indigenous peoples.

研究分野：地域研究、人類学

キーワード：固有文化 開発 自然保護 狩猟採集民 バカ サン ハッザ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2007年に国連総会で採択された「先住民の権利に関する国連宣言」は、先住民が固有の慣習・文化を守り、自身の必要性に基づいて発展する権利を強調したものである。この「宣言」以降、世界各地で先住民運動が急速に活発化することになった。しかし、国内法との不整合や、多様な民族を統合して国民形成を目指す国家の方針との齟齬等から、その実効化には多くの課題が残されている。また、この宣言が国連から発せられ、国家によって政策化され、地域社会のなかで執行されていく過程でさまざまな問題が生じている。とりわけ問題なのは、国家や国際社会等の外部システムの論理が社会に内在化される過程で、先住民自身が新・旧の経済・政治・文化、制度と価値観の間で揺れ動いている点である。先住民は新旧のシステムの間で選択を迫られているが、現実にはどちらか一方だけを選べないという困難な状況に置かれている。住民の大多数が非入植者、すなわちある意味で「先住民」であるアフリカでは、「誰が先住民か？」についても曖昧なままである。アフリカでは、多民族から成る地域社会の中で、先住民としての特徴が形成されてきたことを考えると、問題はさらに複雑である。先住民に対する性急な対応は、地域社会そして先住民自身にも混乱を生じさせかねない。

本研究ではこうした問題を「先住民が抱えるディレンマ」としてとらえ直し、ディレンマに対処する道を探ろうとしたものである。そして、これまでのアフリカにおける先住民問題に対する、国際社会の要請 国家の施策 地方行政 地域社会というトップダウンのアプローチに替わり、先住民社会及び彼らを含む地域社会の分析をもとに先住民が抱える問題をボトムアップで再構成し、より大きな社会・政治システムのなかでそれらの問題の解決にあたる道を模索したものである。

申請者らはいずれもこれまで長年にわたって、ピグミー系狩猟採集民をはじめ、サン（ブッシュマン）ハッザ等のアフリカの代表的な先住民を対象とした民族誌的研究、及び文化・社会変化に関する研究をつづけてきた。そのなかで、近年の開発・市場経済化や自然保護計画、国際NGO等が支援する人権活動や国家の先住民政策などが複雑に絡み合いながら、これらの先住民及び彼らを含む地域社会に多くの問題を生じさせていることを実感した。それらの問題の的確な理解と対処のためには、地域社会における先住民の実態を総合的に理解し、それに基づくアプローチが必要と考え、本計画を立案するに至った。

### 2. 研究の目的

大規模開発や市場経済の浸透、自然保護計画、国家の先住民政策と活発化する先住民運動などによって、アフリカの先住民社会は大きく変化しつつある。本研究では、こうした外生的な変化が内在化される過程で先住民自身に生じている矛盾(ディレンマ)を明らかにする。また、彼らが新しく生じた政治的、経済的な機会と従来の文化・社会との矛盾・相克に対して、どのように折り合いをつけてゆくかを検討する。具体的には、アフリカの地域社会における先住民及び彼らと周辺の優勢な民族との関係のあり方を踏まえた上で、彼らが自然保護と文化・生活の保全、学校教育の普及と固有文化の継承、経済発展と分配・相互扶助の規範、新しい政治参加形式と従来の平等性などの間で直面している問題を把握するとともに、これらの問題に対処する方法を探る。

### 3. 研究の方法

アフリカの先住民が抱える諸問題を現地調査と比較研究によって明らかにし、それらに対する処方を探求する。現地調査は、アフリカの先住民として世界的な注目を集めている狩猟採集民を主な対象とするが、先住民問題が先鋭化している他の地域の先住民についても比較調査を実施し、地域における先住民問題を比較検討する。現地調査ではとくに、先住民と周辺の他民族、他集団との関係、自然保護と先住民の文化・生活、学校教育と固有文化の継承、経済発展と分配の規範、代表制政治への参加と平等性など、従来の生業や文化、社会慣行との間に齟齬が生じている問題を取り上げた。これらの問題は、相互に関連しつつ先住民及び彼らを含む地域社会にディレンマを突きつけているため、総合的な研究・解析が必要である。

現地調査は、カメルーンのバカ・ピグミ、タンザニアのハッザ、ボツワナのサン等の狩猟採集社会あるいはポスト狩猟採集社会の先住民、及び彼らに隣接する諸民族を主な対象として実施した。また現地調査と並行して、これらの諸民族、及びナミビア、ケニア等に居住する他の先住民社会に関する文献資料を当該国及び旧宗主国のナショナル・アーカイブや図書館において収集し、分析した。

これらの成果を国内外の学会などで発表し、より広い学界及び社会に向けて発信した。

なお、計画当初に予定していたコンゴ民主共和国のムブティやケニア北部のドロボに関する現地調査は、現地における感染症の流行や政情不安のため実施できなかったが、代わりにカメルーン、タンザニア、ボツワナ、ナミビアの先住民に関する調査に注力することができた。

### 4. 研究成果

#### (1) 非木材森林産物の利用をめぐる問題

カメルーン東部州の国立公園に隣接する熱帯雨林地帯において、自然保護と先住民の文化・生活の保全の間にある潜在的な対立を統合する方法として、野生動物の狩猟を含む非木材森林

資源(NTFPs)の持続的利用と、それをめぐって生じている社会的問題について検討した。森林保全と両立する非木材森林資源の持続的利用を確立するために、資源の分布と賦存量、利用と交換・販売に関する実態調査をおこなった。野生動物については、タンパク源及び現金収入源として重要であるが、獣肉の商業的な取引が持続的な狩猟を脅かしていることを指摘した。他方、非木材森林産物については、油脂調味料として重宝され、現金収入源としても必要なイルピンギア・ナッツが森林での生産量の10パーセント以下しか利用されていないこと、アフリカショウガやトウダイグサ科のRicinodendronの実などの他の産物も過少利用の状態であることを示し、これらの資源を自給と交易のために持続的に利用することが森林の保護と先住民の福祉を両立させる効果的な方法であることを指摘した。また、先住民による狩猟の実態とそれを制限する国家の施策との齟齬、コミュニティに管理が委ねられた共同狩猟区の管理において、先住民であるバカが実質的な決定過程に関わっていない状況、主要な森林産物の商業化にともなってバカに現金収入の道が開かれた一方で産物の流通を仲介する農耕民が多額の収益を得ており、狩猟採集民と農耕民の間の格差が広がって拡大していること、さらに狩猟採集民の世帯間でも現金収入の格差が現われ始めてはいることなどを明らかにした。このように、非木材森林産物の商業化やコミュニティ狩猟区の設立といった新しい経済的、政治的機会が出現しているものの、それによってあらたな矛盾や民族集団間の格差が生じていることを指摘した。農耕民と狩猟採集民の間の経済格差と不平等については、これが両者の歴史的関係に根差す構造的な要因によるものであるため、両者の社会関係を踏まえ、狩猟採集民が適正なレートで森林産物の取引をできるような体制の確立が必要となる。

## (2) ツーリズムをめぐるとの問題

タンザニアにおいて、先住民ハッザを巻き込んだ観光がもたらしている問題を追跡した。ハッザとともに原野を歩いたり、狩猟に参加したりといった新しい形のツーリズムへのハッザの参画状況に関する調査から、ツーリズムが要求する定住化と従来のブッシュでの移動生活が矛盾することを示し、ハッザがこの矛盾をツーリスト・スポットでの現金稼得とブッシュのキャンプでの移動生活を往還することによってある程度解消していることを指摘した。また、観光客相手の装飾品等の売り上げには個人差が認められるが、利益の多くが食物や酒などの消費物資の購入に使われ、しかもそれらの共同消費や相互分配が行われるために、収入の差が個人間の格差として固定するのが防がれていることを示した。

ボツワナでも近年、地元に住む白人の主導のもとで「ブッシュマン観光」が盛んになっている。この新しい経済機会はブッシュマン(サン)にとって少なからぬ現金収入源となっているが、そこにおける就労者が入れ替わることにより、彼ら自身のあいだでの格差の拡大が抑えられている。その一方で、この事業の成功によってサンは収入が増えたものの、事業の主導権を握る白人優位の構造が再生産され、サンは意思決定の範囲が制限されることになるなどの矛盾を抱えていることを示し、先住民社会における観光事業がこのような矛盾の微妙なバランスの上に成り立っていることを指摘した。

ハッザやサンの場合、ツーリズムという新しい経済機会に彼らが積極的に取り組むためには、これらの企画を推進してきた白人や現地の支配層との交渉を通して、収入と統治のバランスをいかに維持してゆくかが肝要であり、今後はこの点に注目して事業を見守る必要がある。

## (3) 土地に対する権利をめぐるとの問題

ボツワナにおいては、国際組織の支援を受けたサンが政府と長期にわたる交渉の結果、先祖伝来の土地に対する権利を得たが、その権利は訴えの声をあげた一部の者に限られ、しかも移動の制限と公共サービスの停止という条件付きであった。頻繁かつ広範囲に及ぶ移動と流動性に富んだ居住集団という社会生活を特徴としてきたサンが、従来の社会生活と、「定住」及び「固定したメンバー」という条件で得た土地に対する権利の間で新たな矛盾を抱えていることを明らかにした。このような矛盾に対してサンが今後どのように対処してゆくのか追跡してゆく必要がある。

またタンザニアのハッザも近年、ンゴロンゴロ山の南東部に彼らが権利を有する土地を得ることになったが、そこでは農耕が禁止されているなど、社会変化への道が制限されているなどの問題があることが明らかになった。

## (4) 在来知識をめぐるとの問題

狩猟採集社会における知識の習得過程に関して、学校教育と対比させつつ、伝統的な知識の学習とその意義について検討した。従来の研究では、現代的な学校教育によって、実践を通して習得される伝統的知識の習得の機会が失われる恐れがあると指摘されてきたが、カメルーンのバカに関する調査からは、暫定的ながら、学校教育の経験と在来知識の豊富さが相関するという興味深い結果が得られた。また、カメルーン東部州の調査地において、主要な狩猟対象である森林性アンテロープの狩猟圧に関する住民の在来知識と現代科学(生態学)の成果を接合し、それをもとに対立的状況にあった自然保護と動物資源の持続的利用を統合する方法を提案した。さらに先住民文化の保全と活用を資するため、国立民族学博物館と協力して、これまでに蓄積された中央アフリカのムプティ、アカ、バカなどのピグミー系集団、ケニアのドロボ、ザンビアのバングウェウル湖の漁撈民等の先住民に関する画像資料約7000点をデータベース

化した。

( 5 ) 成果の公表と発信

これらの調査に関する報告を、日本アフリカ学会(犬山、藤枝、長野、札幌、京都)、生態人類学会(札幌、福知山、沖縄県南城、千葉県鴨川)などの国内学会、国際狩猟採集社会学会(2015年ウィーン、2018年マレーシア)、国際民族生物学会(2016年ウガンダ、2018年ブラジル)、国際人類学・民族学学会(2016年クロアチア)、第四紀学会(2017年台湾)などの国際学会において発表したほか、スイス(「先住民の狩猟に関するワークショップ」2015年)、ドイツ(「アフリカにおける狩猟に関するコロキウム」2016年及び「ゾウと人間の関係に関する国際シンポジウム」2019年)、連合王国(「コンゴ研究の過去・現在・未来」2018年)などの研究機関での招待講演等をおこなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 20件／うち国際共著 6件／うちオープンアクセス 21件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Dounias, E. & M. Ichikawa  | 4. 巻<br>14(3)         |
| 2. 論文標題<br>Seasonal Bushmeat Hunger in the Congo Basin   | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>Ecohealth  | 6. 最初と最後の頁<br>575-591 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="https://doi.org/10.1007/s10393-017-1252-y">https://doi.org/10.1007/s10393-017-1252-y</a> | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>該当する          |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Maruyama, J.   | 4. 巻<br>54            |
| 2. 論文標題<br>From “Displaced Peoples” to “Indigenous Peoples”: Experiences of the !Xun and Khwe San in South Africa. | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>African Study Monographs, Supplementary Issue.   | 6. 最初と最後の頁<br>137-154 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="https://doi.org/10.14989/230157">https://doi.org/10.14989/230157</a>           | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>丸山淳子・目黒紀夫                        | 4. 巻<br>92          |
| 2. 論文標題<br>アフリカにおける「住民参加型観光」の再検討 地域社会の視点から | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>アフリカ研究                           | 6. 最初と最後の頁<br>19-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし              | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>丸山淳子   | 4. 巻<br>92          |
| 2. 論文標題<br>ボツワナ中西部における「ブッシュマン観光」の成立と展開 開発と地域の社会関係のダイナミズム | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>アフリカ研究   | 6. 最初と最後の頁<br>55-68 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                            | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                    | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>八塚春菜  | 4. 巻<br>92          |
| 2. 論文標題<br>タンザニアにおける狩猟採集民ハッザの観光実践 民族間関係、個人の移動、収入の個人差に着目して | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>アフリカ研究  | 6. 最初と最後の頁<br>27-41 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                            | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                     | 国際共著<br>-           |

|                                       |                    |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名<br>市川光雄                        | 4. 巻<br>93         |
| 2. 論文標題<br>アフリカの潜在力について               | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>アフリカ研究                      | 6. 最初と最後の頁<br>8-11 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし        | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著<br>-          |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Olivero, J., M. Ichikawa, H. Yasuoka, R. Nasi 他23人  | 4. 巻<br>11(1): e0144499 |
| 2. 論文標題<br>Distribution and numbers of Pygmies in Central African forests   | 5. 発行年<br>2016年         |
| 3. 雑誌名<br>PLoS ONE (on line journal)  | 6. 最初と最後の頁              |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.1371/journal.pone.0144499">https://doi.org/10.1371/journal.pone.0144499</a> | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>該当する            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Maruyama, J.   | 4. 巻<br>52            |
| 2. 論文標題<br>Contemporary Dynamics of Residential Practice and Social Relationships among the G ui and G ana San | 5. 発行年<br>2016年       |
| 3. 雑誌名<br>African Study Monographs, Supplementary Issue  | 6. 最初と最後の頁<br>171-187 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.14989/207688">https://doi.org/10.14989/207688</a>      | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)  | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Fa J. E.Olivero, Yasuoka Hirokazu, Kangaing Towa, Nasi Robert 他11人  | 4. 巻<br>11 e0161703 |
| 2. 論文標題<br>Differences between Pygmy and Non-Pygmy Hunting in Congo Basin Forests   | 5. 発行年<br>2016年     |
| 3. 雑誌名<br>PLoS ONE (on line journal)  | 6. 最初と最後の頁          |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.1371/journal.pone.0161703">https://doi.org/10.1371/journal.pone.0161703</a> | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>該当する        |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Yatsuka, H.  | 4. 巻<br>94           |
| 2. 論文標題<br>Historical Interaction with Neighbors from the View of Livelihood Change: A Study of the Sandawe of Tanzani | 5. 発行年<br>2016年      |
| 3. 雑誌名<br>Senri Ethnological Studies   | 6. 最初と最後の頁<br>81-105 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="http://doi/10.15021/00008290">http://doi/10.15021/00008290</a>                    | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Ichikawa, M.  | 4. 巻<br>60         |
| 2. 論文標題<br>Toward Sustainable Livelihoods and the Use of Non-Timber Forest Products in Southeast Cameroon | 5. 発行年<br>2020年    |
| 3. 雑誌名<br>African Study Monographs, supplementary issue   | 6. 最初と最後の頁<br>5-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.14989/250125   | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Hirai, M. and H. Yasuoka  | 4. 巻<br>60          |
| 2. 論文標題<br>It's Not the Availability, But the Accessibility that Matters: Ecological and Economic Potential of Non-Timber Forest Products in Southeast Cameroon | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>African Study Monographs, supplementary issue   | 6. 最初と最後の頁<br>59-83 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.14989/250128   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Toda, M. and H. Yasuoka   | 4. 巻<br>60          |
| 2. 論文標題<br>Unreflective Promotion of the Non-Timber Forest Product Trade Undermines the Quality of Life of the Baka: Implications of the Irvingia gabonensis Kernel Trade in Southeast Cameroon | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>African Study Monographs, supplementary issue   | 6. 最初と最後の頁<br>85-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.14989/250129   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-           |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>市川光雄                         | 4. 巻<br>93         |
| 2. 論文標題<br>アフリカの潜在力について                | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>アフリカ研究                       | 6. 最初と最後の頁<br>8-11 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Kamgaing Towa Olivier William, Dzefack Zeun's C?lestin Brice, Yasuoka Hirokazu  | 4. 巻<br>7       |
| 2. 論文標題<br>Declining Ungulate Populations in an African Rainforest: Evidence From Local Knowledge, Ecological Surveys, and Bushmeat Records | 5. 発行年<br>2019年 |
| 3. 雑誌名<br>Frontiers in Ecology and Evolution (on-line)  | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="https://doi.org/10.3389/fevo.2019.00249">https://doi.org/10.3389/fevo.2019.00249</a>                   | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>該当する    |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>Yatsuka, H.  | 4. 巻<br>11(54)  |
| 2. 論文標題<br>Sustainable Hunting as Commodity: The Case of Tanzania's Hadza Hunter-Gatherers | 5. 発行年<br>2018年 |
| 3. 雑誌名<br>Global-E (on-line journal)   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-       |



|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>Cornelison, S. and J. Maruyama               | 4. 巻<br>11(34)  |
| 2. 論文標題<br>Tourism, Capital, and Livelihoods in Africa | 5. 発行年<br>2018年 |
| 3. 雑誌名<br>Global-E (on-line journal)                   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                         | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                 | 国際共著<br>該当する    |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>Maruyama, J.                                       | 4. 巻<br>11(46)  |
| 2. 論文標題<br>Keeping a Distance: 'Bushman Tourism' in Botswana | 5. 発行年<br>2018年 |
| 3. 雑誌名<br>Global-E (on-line journal)                         | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                               | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                       | 国際共著<br>-       |

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 20件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Ichikawa, M.   |
| 2. 発表標題<br>Elephant Hunting by the Mbuti Hunter-gatherers in the Eastern Congo Basin    |
| 3. 学会等名<br>VIIth International Conference on Mammoths and Their Relatives (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>木村大治, 松浦直毅                        |
| 2. 発表標題<br>ワンバ地域の経時的変化: コンゴ民主共和国における紛争後の農村変容 |
| 3. 学会等名<br>第54回日本アフリカ学会学術大会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                              |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yasuoka, H. T.O.W. Kangaing & N. C. B. Dzefack  |
| 2. 発表標題<br>Comparison between hunters' knowledge and transect surveys of game species in an African Rainforest |
| 3. 学会等名<br>54th Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation (招待講演) (国際学会)          |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>丸山淳子                       |
| 2. 発表標題<br>ボツワナにおける「ブッシュマン観光」の成立とその展開 |
| 3. 学会等名<br>第54回日本アフリカ学会学術大会           |
| 4. 発表年<br>2017年                       |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.  |
| 2. 発表標題<br>Nature conservation, land access and economic disparities among the San hunter-gatherers in Southern Africa                         |
| 3. 学会等名<br>France-Japan Area Studies Forum: Voices for the Future: African Area Studies in a Globalizing World, Kyoto University (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.   |
| 2. 発表標題<br>Divided Land, Shared Land: Recent Land Issues among the San Hunter-Gatherers in Central Kalahari           |
| 3. 学会等名<br>Symposium on "African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues" (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yasuoka, H.   |
| 2. 発表標題<br>Forest resources management in collaboration between ecologists and local people, southeastern Cameroon   |
| 3. 学会等名<br>The Challenge of Tropical Forest Biodiversity Conservation and Sustainable Development at Landscape to Regional Levels, Kyoto University (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>平井將公・市川光雄     |
| 2. 発表標題<br>非木材森林産物の持続的利用 |
| 3. 学会等名<br>日本アフリカ学会      |
| 4. 発表年<br>2016年          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hirai, M. & M. Ichikawa   |
| 2. 発表標題<br>Establishing sustainable use of NTFP in southern Cameroon: Integrated Landscape approach to ecological potentials, livelihood and social system |
| 3. 学会等名<br>15th International Congress of Ethnobiology, Kampala, Uganda (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2016年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kimura, D.   |
| 2. 発表標題<br>Congo War, Long-Distance Walking Trade and Bushmeat Hunting" 2016年12月13日 .                     |
| 3. 学会等名<br>Institutskolloquium, Institut für Ethnologie und Kulturwissenschaft, Universität Bremen (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2016年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.  |
| 2. 発表標題<br>Possibilities and Dilemmas of Indigenous Land Rights Movement of the San Hunter-gatherers: Comparison of two cases from Botswana and South Africa |
| 3. 学会等名<br>15th IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter-Congress, Croatia (国際学会)                                      |
| 4. 発表年<br>2016年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>八塚春菜                              |
| 2. 発表標題<br>気乗り薄なホスト タンザニア、狩猟採集民ハツツァによる民族文化観光 |
| 3. 学会等名<br>日本アフリカ学会                          |
| 4. 発表年<br>2016年                              |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.  |
| 2. 発表標題<br>Dynamics of Social Relationships and Residential Practices among the San Hunter-Gatherers in Central Kalahari |
| 3. 学会等名<br>Global South Studies Cologne Public Lectures (招待講演)   |
| 4. 発表年<br>2016年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.  |
| 2. 発表標題<br>Coming to Political Consciousness: The Indigenous Land Rights Movement among the San of Southern Africa |
| 3. 学会等名<br>Africanist Seminar Series of University of Toronto (招待講演)   |
| 4. 発表年<br>2016年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.   |
| 2. 発表標題<br>Resettlement, Conservation and Tourism: Contemporary Dynamics of Residential Moves among the San in Central Kalahari |
| 3. 学会等名<br>Seminar Series of the Centre for Society, Technology, and Development (STandD), McGill University (招待講演)             |
| 4. 発表年<br>2016年   |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>市川光雄                   |
| 2. 発表標題<br>中央アフリカ森林帯におけるブッシュミート問題 |
| 3. 学会等名<br>第52回日本アフリカ学会           |
| 4. 発表年<br>2015年                   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Ichikawa, M., S. Hattori & H. Yasuoka   |
| 2. 発表標題<br>Bushmeat Crisis, Forestry Reforms and Contemporary Hunting among Central African Forest Hunters |
| 3. 学会等名<br>11th Conference on Hunting and Gathering Societies (Plenary session) (招待講演) (国際学会)              |
| 4. 発表年<br>2015年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kimura, D.  |
| 2. 発表標題<br>Interpenetration of Self' Observed in Baka's Social Interaction |
| 3. 学会等名<br>11th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)       |
| 4. 発表年<br>2015年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yasuoka, H.  |
| 2. 発表標題<br>Hunting taboo and Jengi of the Baka in southeastern Cameroon |
| 3. 学会等名<br>11th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)    |
| 4. 発表年<br>2015年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.  |
| 2. 発表標題<br>Land Issues and Dynamics of Livelihood and Residential Practices of the San: Two cases from Botswana and South Africa |
| 3. 学会等名<br>11th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2015年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yatsuka, H.   |
| 2. 発表標題<br>The Role of Mobility in Changing Subsistence: A Case Study of the Hadza in Ethnic Tourism in Tanzania," 11th meeting of the Conference on Hunting and Gathering Societies |
| 3. 学会等名<br>11th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2015年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Ichikawa, M.   |
| 2. 発表標題<br>Elephant hunting by the Mbuti hunter-gatherers in eastern Congo                            |
| 3. 学会等名<br>International Symposium on Human Elephant Interactions: from Past to Present (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hirai, M. and M. Ichikawa   |
| 2. 発表標題<br>Social Influences of Commercialization of Non-Timber Forest Products. |
| 3. 学会等名<br>16th International Congress of Ethnobiology (国際学会)                    |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kimura, D.  |
| 2. 発表標題<br>Changes in distribution systems and subsistence activities among the Bongando in Tshuapa Province, DR Congo |
| 3. 学会等名<br>International Conference on " Congolese Studies: Past, Present, Future" ( (招待講演) (国際学会) )                   |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kimura, D.  |
| 2. 発表標題<br>Everyday social interactions of hunter-gatherers: Progresses and prospects        |
| 3. 学会等名<br>12th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHaGS12) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yasuoka, H.   |
| 2. 発表標題<br>How do skillful elephant hunters remain in the egalitarians? A case of Baka Pygmies in Central Africa |
| 3. 学会等名<br>International Symposium on Human Elephant Interactions: from Past to Present (招待講演) (国際学会)            |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>安岡宏和                               |
| 2. 発表標題<br>在来知と生態学的手法の統合による革新的な森林資源マネジメントの共創. |
| 3. 学会等名<br>日本アフリカ学会第55回学術大会                   |
| 4. 発表年<br>2018年                               |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>丸山淳子   |
| 2. 発表標題<br>「自然保護」が生みだす土地格差: ボツワナ西部におけるサンと野生動物保護・家畜管理をめぐる諸問題 |
| 3. 学会等名<br>日本アフリカ学会第56回学術大会                                 |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Maruyama, J.  |
| 2. 発表標題<br>Mobility and Indigeneity: Land issues among the San hunter-gatherers of southern Africa |
| 3. 学会等名<br>International Conference on Resources and Human Mobility (招待講演) (国際学会)                  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>丸山淳子   |
| 2. 発表標題<br>分けあうことは疲れる、分けあわないことも疲れる 現代の狩猟採集社会から考えるシェアリング |
| 3. 学会等名<br>日本文化人類学会主催公開シンポジウム (招待講演)                    |
| 4. 発表年<br>2018年   |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>八塚春菜                             |
| 2. 発表標題<br>狩猟採集民ハッザによる食用植物の採集活動 食事調査と場の分析から |
| 3. 学会等名<br>日本アフリカ学会第56回学術大会                 |
| 4. 発表年<br>2019年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yatsuka, H.  |
| 2. 発表標題<br>Attitude of the Hadza Hunter-Gatherers toward Tourism in Tanzania: Individual Cash Incomes through Selling Souvenirs |
| 3. 学会等名<br>12th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHaGS12) (国際学会)                                    |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Evariste Fongzossie, F., T. Oishi and M. Ngansop                                     |
| 2. 発表標題<br>Ethnobotanical Knowledge for Hunting among Baka Hunter-gatherers in Eastern Cameroon |
| 3. 学会等名<br>12th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHaGS12) (国際学会)    |
| 4. 発表年<br>2018年   |

〔図書〕 計15件

|                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>深山直子・丸山淳子・木村真希子 (共編著) | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>昭和堂                   | 5. 総ページ数<br>288 |
| 3. 書名<br>編『先住民からみる現代世界』         |                 |

|   |                              |
|---|------------------------------|
| 1. 著者名<br>丸山淳子  | 4. 発行年<br>2018年              |
| 2. 出版社<br>昭和堂   | 5. 総ページ数<br>288(担当: 245-264) |
| 3. 書名<br>「先住性と移動性の葛藤：ボツワナの狩猟採集民サンズの遊動生活と土地権運動」深山直子・丸山淳子・木村真希子編 『先住民からみる現代世界：わたしたちの あたりまえ に挑む』 |                              |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名<br>丸山淳子・木村真希子・深山直子   | 4. 発行年<br>2018年           |
| 2. 出版社<br>昭和堂   | 5. 総ページ数<br>288(担当: 1-20) |
| 3. 書名<br>「いま、なぜ『先住民』か」深山直子・丸山淳子・木村真希子編 『先住民からみる現代世界：わたしたちの あたりまえ に挑む』 |                           |

|   |                              |
|---|------------------------------|
| 1. 著者名<br>八塚春菜  | 4. 発行年<br>2018年              |
| 2. 出版社<br>昭和堂   | 5. 総ページ数<br>288(担当: 240-244) |
| 3. 書名<br>「生業変容と土地をめぐる権利 タンザニアの狩猟採集民ハッザとサンダウェ」深山直子・丸山淳子・木村真希子編 『先住民からみる現代世界』 |                              |

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1. 著者名<br>Ichikawa, M., S. Hattori & H. Yasuoka   | 4. 発行年<br>2017年             |
| 2. 出版社<br>Springer  | 5. 総ページ数<br>257 (担当: 59-75) |
| 3. 書名<br>Bushmeat Crisis, Forestry Reforms and Contemporary Hunting Among Central African Forest Hunters ..... In: Reyes-Garcia, V. and A. Philala (eds) Hunter-Gatherers in a Changing World |                             |

|  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 1. 著者名<br>丸山淳子                                       | 4. 発行年<br>2016年                     |
| 2. 出版社<br>臨川書店                                       | 5. 総ページ数<br>316 ( (担当: 184 - 208) ) |
| 3. 書名<br>「誰と分かちあうのか: サンの食物分配にみられる変化と連続性」岸上伸啓編『贈与論再考』 |                                     |

|  |                                 |
|--|---------------------------------|
| 1. 著者名<br>丸山淳子   | 4. 発行年<br>2016年                 |
| 2. 出版社<br>世界思想社  | 5. 総ページ数<br>318 (担当: 151 - 176) |
| 3. 書名<br>「それぞれの『生きていくためのやり方』: 現代のカラハリ狩猟採集社会において働くということ」中谷文美・宇田川妙子編『仕事の人類学 労働中心主義の向こうへ』 |                                 |

|  |                               |
|--|-------------------------------|
| 1. 著者名<br>八塚春菜   | 4. 発行年<br>2016年               |
| 2. 出版社<br>東京大学出版会  | 5. 総ページ数<br>320 (担当: 169-174) |
| 3. 書名<br>「狩猟採集から複合生業へ タンザニアのサンダウェ社会における農耕と家畜飼養の展開」池谷和信(編)『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生』 |                               |

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名<br>木村大治  | 4. 発行年<br>2016年               |
| 2. 出版社<br>京都大学学術出版会   | 5. 総ページ数<br>374 (担当: 199-230) |
| 3. 書名<br>「『濃淡の論理』と『線引きの論理』 - コンゴ民主共和国ワンバ地域における森の所有をめぐる」(松田素二・平野(野元)美佐 編)『アフリカ潜在力 1 紛争をおさめる文化 - 不完全性とプリコラージュの実践』 |                               |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Ichikawa, M.  | 4. 発行年<br>2016年 |
| 2. 出版社<br>John Willey & Sons, Inc.  | 5. 総ページ数<br>-   |
| 3. 書名<br>Hunting and Gathering as Techniques, In: Hilary Callan, et al (eds.), International Encyclopedia of Anthropology (on-line version) |                 |

|   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 著者名<br>Ichikawa, M., S. Hattori & H. Yasuoka   | 4. 発行年<br>2016年        |
| 2. 出版社<br>Springer  | 5. 総ページ数<br>253(59-75) |
| 3. 書名<br>Bushmeat Crisis, Forestry Reforms and Contemporary Hunting among Central African Forest Hunters. In, Pyhala, A. & V. Reyes-Garcia (eds) , Hunter-gatherers in a Changing World |                        |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Terashima, H. & B. Hewlett (eds.)   | 4. 発行年<br>2016年 |
| 2. 出版社<br>Springer-Japan, Tokyo   | 5. 総ページ数<br>318 |
| 3. 書名<br>Social Learning and Innovation in Contemporary Hunter-Gatherers: Evolutionary and Ethnographic Perspectives. Co-editor: Barry S. Hewlett |                 |

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 1. 著者名<br>Terashima, H.   | 4. 発行年<br>2016年          |
| 2. 出版社<br>Springer-Japan, Tokyo   | 5. 総ページ数<br>318(253-266) |
| 3. 書名<br>Hunter-Gatherers and Learning in Nature, in "Social Learning and Innovation in Contemporary Hunter-Gatherers |                          |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Yasuoka, H. and M. Ichikawa   | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>Center for African Area Studies, Kyoto University   | 5. 総ページ数<br>102 |
| 3. 書名<br>Utilization and Potentials of Non-Timber Forest Products and Wildlife in Southeast Cameroon. |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

2016年2月にカメルーン東部州の調査地において、先住民であるバカ及び彼らと密接な関係にある農耕民コナベンベを招いてワークショップを開催し、森林保全と住民の生活・文化との統合を試みた調査のそれまでの成果の還元とそれに対する住民側からのフィードバックを得た。

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                 | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                   | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 木村 大治<br>(Kimura Daiji)<br>(40242573)     | 京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授<br><br>(14301)   |    |
| 研究分担者 | 安岡 宏和<br>(Yasuoka Hirokazu)<br>(20449292) | 京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授<br><br>(14301) |    |
| 研究分担者 | 丸山 淳子<br>(Maruyama Junko)<br>(00444472)   | 津田塾大学・学芸学部・准教授<br><br>(32642)           |    |

## 6. 研究組織（つづき）

|           | 氏名<br>(研究者番号)                                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                        | 備考 |
|-----------|--|--|----|
| 研究<br>分担者 | 八塚 春名<br><br>(Yastuka Haruna)<br><br>(40596441)    | 津田塾大学・学芸学部・講師<br><br><br><br>(32642)         |    |
| 研究<br>分担者 | 分藤 大翼<br><br>(Bundo Daisuke)<br><br>(70397579)     | 信州大学・学術研究院総合人間科学系・准教授<br><br><br><br>(13601) |    |
| 研究<br>協力者 | カムゲン トワ・ウィリアム<br><br>(Kamgaing Towa William)       |  |    |
| 研究<br>協力者 | フォンゾシエ エバリスト<br><br>(Fongnzossie Evariste)         |  |    |
| 研究<br>協力者 | 平井 将公<br><br>(Hirai Masaaki)                       |  |    |
| 連携<br>研究者 | 寺嶋 秀明<br><br>(Terashima Hideaki)<br><br>(10135098) | 神戸学院大学・人文学部・教授<br><br><br><br>(34509)        |    |